



分散登校始まる

(もう使わないかな)と思っていた給食のパーティションを再び準備し、先週から使用を始めました。そして3月のゴールまでクラス全員で過ごせると楽観視していた考えはくつがえされ、1月26日(水)から2度目の分散登校が始まりました。

前回の経験を活かして、今回の分散登校は大きな支障もなく始めることができたように思います。しかし生徒が半分になってしまった教室は、がらんとやっぱり寂しいものです。また学年末も近づき、授業時数も心配になります。あれこれ考えると思わずため息が出てしまいそうになります。それでも…。

北東中学校は万全を期してこの間も学校運営に臨みます。分散登校であっても、きちんと学習保障を考え授業を進めます。また学級の仲間の心がつながって毎日が送れるように工夫したいと思います。

きちんと前を向いて頑張ります。 ご心配をおかけしますが、どうぞご協力をお願いします。



次の一步を見据えて

将棋の藤井聡太四冠と渡辺明三冠が激突した王将戦が話題になっています。藤井聡太さんは言わずと知れた将棋界の至宝で、19歳の現在、さらに新たなタイトルに挑戦しているわけです。その藤井さんのエピソードに強い負けず嫌いだというのがあります。小学2年生の時、イベントで谷川浩司元四冠に二手落ちて挑戦する機会を得たのですが、終盤に負けの形勢が決まり引き分けを提案されると大泣きしながら将棋盤前で固まってしまったといいます。強い気持ちをもつことの大切さや負けを次に活かすことの必要を教えてくれる話です。

ところで将棋の棋士は何手くらい先まで深く読むことができるのでしょうか？一説には1000手先までも可能とも言われています。1000手先は桁違いですが、私たちが普段の生活で何手か先を見据えて取り組んでいきたいものです。

逆算して考える

令和3年度も日一日と学校生活を送れる時間が減っています。ゴールはもう、少し先に見えてきました。ゴールのその日、生徒のみなさんはどんなイメージをもちますか？ 自分は、仲間は、学級は、そして学年はどんな顔をしてその日を迎えるのでしょうか？

笑顔と優しさ、そして何かを達成した自信に満ちた表情でゴールテープを切ってほしいと思っています。

さてそんな姿を実現するために今できることは何でしょう？ ゴールから逆算して考えて下さい。 さらに2月中に達成すべきことは？ 2月半ばまでは？ 今月中は？ どうでしょうか。

分散登校になってしまいました。できることは少なくなってしまったかもしれませんが。それでも大切なことは何なのか？きちんと考えてほしいと思います。

4月に立てた学級目標は実現できそうですか？ 登校日が6日減ったので2月1日からゴールの日まで、1・2年生は30日、3年生は21日です。こう考えると一日一日が、そして今がとても大切になります。

一日の重みが増しました。

次の一步を考える

3月にゴールした後の次の一步を見据えておくことも重要です。

3年生は新しい次のステージが待っています。自分で選択した道です。自分らしさが発揮できるよう、しっかりと準備を進めてください。

2年生はいよいよ最高学年です。4月には最後の選手権大会に臨み、5月には学校のリーダーとして生徒総会で発言していることでしょう。また同じ月に修学旅行も予定されています。

1年生は後輩を迎え、先輩と呼ばれるようになります。相川小、新紺屋小の6年生が学校見学に来てくれましたが、彼らを導いていける心優しき中堅学年にきっと成長していると思います。

プロの棋士のように何手も先をイメージしながら、今できることに戦略的に取り組んでください！



3学期の決意～始業式の言葉～

私たち2年生は最高学年としての準備期間となる3学期を3年生0学期と考えています。そしてその3学期は当たり前のことを当たり前に行いたい。当たり前のこととは例えば、「授業評価をすべてAにする」や「挨拶をしっかりと行う」などです。授業評価をすべてAにするとは授業を大切にすることです。そうすることでクラスの団結力、学年の団結力へとつながると考えています。また私たちは1人で学校生活を送っているわけではありません。挨拶をしっかりと行える集団は仲間を大切にできる集団だと思います。そういう当たり前のことをしっかりと行い繰り返すことで、最高学年としての自覚を徐々に芽生えさせることができると考えています。

また2学期の課題として多かった声は「清掃活動」です。隅々まできれいにできなかったことや終了時間まで続けられなかったという点が課題でした。この課題を3年生に持ち越すことなく3学期の内に改善することができなければ最高学年になることができないと思います。

そして3年生に贈る会などの行事を成功させるには学年がひとつになることは必要不可欠だと思います。2年生のまとめであり、3年生になるための準備期間である今学期を、緑学年のよさである団結力を活かして乗り越えていきたいです。

また最高学年になる年なので、北東中学校の顔として自覚をもって生活していきたいです。

2の2 中澤 里奈

令和4年1月7日、3学期がスタートしました。始業式は前日までは体育館に参集して行う予定でしたが、急遽オンラインに変更し、各教室を Google Meet を使って結び、実施しました。

この形で集まりを行うことも回数を重ねているので、これがスタンダードになりつつあるとも感じました。いろいろなリスクを減らしながら、温かい教室できちんと話を聞いたり参加したりできるメリットがあるからです。

学年代表として3人の生徒が話をしてくれましたが、3人とも素晴らしい態度で堂々と発表してくれました。どの発表も、前を向いてしっかりと頑張ろうという熱い気持ちが伝わってくる内容で感心しました。

あらためてこの3学期が実り多きものになってほしいと心から思いました。

いよいよ3学期が始まります。1年生最後の学期は、私たちにとってとても大切な学期です。これまでに経験したことや学んだことを活かし、クラスや学年で絆を深め、成長していきたいです。そのために3学期に力を入れていきたいことが3つあります。

1つ目は、この3学期は、私たち1年生にとって3年生と過ごす最後の学期になります。これまでに3年生には大変お世話になりました。3年生との残り少ない時間を大切にし、感謝の気持ちを伝えていきたいです。

2つ目は、私たちは四月から2年生になります。教えられる立場から教える立場になります。最上級生となる3年生を支え、新たに北東中に入学してくる後輩の手本とならなくてはなりません。そのために自分たちで考え、行動できるようにしたいです。

3つ目は、勉強です。2年生になるにあたり勉強にもっと力を入れていかなければなりません。これまでに学習したところで苦手なところやわからなかったところを復習し、「分かった」と言えるようにしていきたいです。また、1時間1時間の授業を大切にしていきたいです。

3学期は1年生のまとめの学期であり、2年生への準備期間でもあります。これらのことを意識して、がんばっていきましょう。

1の1 新井 凜花

一年が終わると多くの人は、1年は短かったなと言います。2022年も残り358日です。358日を何もしないで過ごしたら、また無駄な1年を過ごしてしまいます。今日、2022年1月7日はもう帰ってきません。

365日ある中で何回簡単な道を選んでいきますか？ 逆に何回難しい道を選べますか？ やろうと思ったことを行動に移していますか？

昨年、僕は自分に都合のいい理由をつくり楽な選択ばかりしてきました。だから今年は常に難しい道を選択し、逃げない年にしたいと思っています。その意識を無意識にしていきたいです。例えば筋トレを習慣にしたら、そのために時間の使い方を意識し、生活の一部に取り入れ、ひとつの習慣にするということです。続けることが一番難しいですが、それを当たり前に行います。そうやって難しいことをやり続けたいです。逃げ出さず、投げ出さず、向き合うようにしたいです。

中学校生活もあと少しです。入試というものがある中で、どのような過ごし方をしていくのか、何に焦点を当てて取り組んでいくのか、一人ひとり違うと思います。しかしその過ごし方、取り組み方が今だけでなく、これからつながり、他のものにもつながっていくと思います。

一日が終わるとき、ベストを尽くせたなと思えるようにしていきたいです。

3の1 青木 一道

「どうにかしようがあること」をどうにかする

コロナ禍はやっぱり閉塞感をもたらします。「できないこと」を思うと悔しいし、モヤモヤしたものが内にたまってきます。（なんとかしたい!）そんな気持ちも強くなります。

陸上400mHの日本記録をもつメダリスト 為末 大さんはこんなことを書いています。

「しょうがない」としか言いようのない物事が人生には数え切れないくらいある。事件や事故、病気、生まれもった才能や家系、そして他人の心。すべて自分ではコントロールのしょうがないものだ。だからそれらに意識を向けるのではなく、「どうにかしようがあること」の方を何とかしていこう。

「過去」と「他人」はコントロールできないけれど、「いま」と「自分」はコントロールできる。「過去」と「他人」のことはそれこそしょうがないのだから、スッパリあきらめる。「いま」できることは何か、「自分」ができることは何か、それを常に探っていく方がいい。

～「為末メソッド 日本図書センター」

また『ベストではなくベターを探す』『苦しいときこそ種をまく』ともおっしゃっています。大切なのは、指をくわえてじっとしていないで、目指すべきところに向かって行動を起こすということでしょう。つまり、やっぱり**挑戦**！ 今できることに向かって、**挑戦**をつづけていきましょう！